

2023 年 2 月 27 日

2022 年度聖路加国際大学大学院 看護学研究科課題研究

新型コロナウイルス感染拡大後の労働者のメンタルヘルスに関する
面談の実施状況及び困難感

Specific implementation status and difficulty of industrial health staff
web interviews for workers' mental health
during the COVID-19 pandemic

21MN002

石塚美優

【目的】本研究では、コロナ感染拡大後の労働者のメンタルヘルスに関する面談の実施状況及び産業保健スタッフの困難感を明らかにし、WEB 面談の実践への示唆を得る。

【方法】本研究は、労働者のメンタルヘルスに対する面談を対面及びWEB で実施した経験のある産業保健スタッフを対象に、半構造化面接を行う質的記述的研究とした。逐語録を繰り返し熟読し必要に応じて推論を行い、一つの内容を表現している記述として抽出した。データの収集方法は、機縁法を用いて研究対象者に対して研究協力依頼文書等を送付し、研究に同意した研究対象者にインタビューを行った。

【結果】労働者のメンタルヘルスに関わる産業保健スタッフ7名を対象にインタビュー調査を行った。分析の結果、産業保健スタッフのWEB 面談の実施状況は【新型コロナウイルス感染拡大に伴う多様な面談形式の導入と多様な働き方に伴う相談内容の変化】、【面談の種類や内容、職種（オフィス職・現場職）、移動距離によって面談形式を選択して使い分けている】、【WEB 面談を活用するために産業保健スタッフが工夫して面談を実施している】の3つのカテゴリと13のサブカテゴリが抽出された。また、産業保健スタッフのWEB 面談の困難感は【WEB 面談では、話せることや見えることが限られるため相手の体調把握や判断が難しい】、【WEB 面談のシステムや通信環境によっては面談を円滑に進めることが難しい】の2つのカテゴリと8のサブカテゴリが抽出された。

【結論】これまでは対面のみの面談が行われていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い働き方が多様化し、WEB 面談の体制が徐々に整備され、面談形式（対面、WEB、ハイブリッド）が変化してきた。また、WEB 面談時に、産業保健スタッフは見えることが限られるため、「気になったら全部口に出して聞く」など分からないことは言葉で聞くことが、産業保健スタッフの技として大切である。一方で、WEB 面談に伴う困難も明らかとなった。WEB 面談を円滑に進めるには労働者の体調や面談内容（長時間労働、復職、休職）、労働者の通信機器保持や信頼関係構築の有無、通信状況が関連していた。初回面談をWEB で実施すると相手の特徴が分からないことや見える範囲が限られ状態を把握しにくいことなどから重要な面談（復職、休職）での困難感が強かった。また、通信トラブルやプライバシーの観点からの困難感もあった。このことからWEB 面談実施に際する事前準備として、面談内容の事前把握や事業所による面談対象者のパソコン/WEB 会議システムへの対応力の調査とその結果の産業保健スタッフとの共有、システムの使用法の事前トレーニング等を行うことが望ましいと示唆された。また、万一の通信トラブル等WEB 面談開始後のトラブルの対応や対策の事前準備と通信遮断等の不具合が発生した際の代替策を産業保健スタッフと対象者に事前共有しておくことが必要であると示唆された。